

ポリクリを終えて

歯学科5年 荒井友菜

半年にわたるポリクリが終わり、歯学部に入學して4年半の月日が経過しました。5年生ではポリクリ、CBT、OSCEと歯学部生活において乗り越えなければならない壁があり、毎日忙しい日々を過ごしていたように思います。

ポリクリとは臨床予備実習のことで、模型実習と臨床実習の架け橋となる実習です。今まで学習したことを実際の臨床でどのように使えば良いのか、患者さんとのコミュニケーションについて学習しました。ポリクリで学んだことはたくさんありますが、その中でも相互実習で患者さんの体験ができたことは、私にとって貴重なものでした。長時間ユニットで横になっていると意外と疲れること、ミラーでの圧排が痛いこと、印象材は冷たくて苦しいこと、頬粘膜は引っ張られてもあまり痛くないことなど、実際に患者役を経験しなければわからないことがたくさんありました。知識や技術に加え、治療中の患者さんの気持ちを理解できることも、歯科医師として必要な力であると改めて感じました。



ポリクリ班のみんなと1枚 筆者は右から4番目

また、ポリクリ期間中は班のメンバーにたくさん助けられました。実習の進みが遅くて怒られても、染め出しで唇を真っ青にしても、笑って許して飲み会のネタにしてくれたメンバーだからこそ、半年間にわたるポリクリを乗り越えられました。最高のメンバーに支えられ、熱心な先生方の指導を受けることができた半年間は、長い歯学部生活の中の大切な思い出です。

歯学科5年 高平亜惟

秋も深まり肌寒くなってきました。早いもので入学して5年半が経過し、私たち55期生は臨床実習で患者さんを治療させていただく立場となりました。現在は臨床実習に向けての引継ぎ期間で、ポリクリを行っていたのがだいぶ前のことのように感じられます。

ポリクリとは、臨床実習に出る前の予備実習で、様々な課題が課せられています。今まで先輩方が緑衣を着て忙しそうにしているのを見てきたうえ、オリエンテーションで配布されたガイドブックも今まで配布されてきた実習書の何倍もの厚みがあり「やばい」と思った記憶があります。



登院式にて 筆者右下1番目

しかし実際は、各科を回って色々な経験をさせていただき、とても勉強になる半年でした。ポリクリの中には今までのような模型実習もありましたが、同級生の口の中を診たり治療したりと、臨床に活かせる場面がたくさんありました。同級生の口の中を処置するというのはとても緊張しまし

たが、その中でも一番緊張したのは下顎孔伝達麻酔の実習です。しかしこの緊張感があったからこそ、臨床実習に出る心構えができたのではないかと思います。医療従事者としての第一歩を踏み出したポリクリを経て、これからも総診での臨床実習に励んでいきたいと思っています。

